

高知市文化プラザかるぽーと リニューアルオープン記念事業

「竜とそばかすの姫」展 ～高知への遺産～

2021年に公開された細田守監督のアニメーション映画『竜とそばかすの姫』は、日本で多くの観客を動員し、第74回カンヌ国際映画祭のカシヌ・プリミエール部門で初上映され、海外メディアから好評を得、北米、フランス、韓国、中国などでも上映されました。映画は、高知の過疎地で暮らす女子高校生が、インターネットの仮想空間(メタバース)では50億人の利用者を魅了する歌姫になるという設定です。

幼い時に体験した母親の死により心に大きな傷を抱えて、大好きだった歌を歌えなくなっていたが、潜在能力を引き出してくれる《U》の世界では歌うことができ、そこで大切な存在を見つけ、悩み葛藤しながら、現実世界でも未来に向かって前向きに歩み始める物語です。

緻密に設計され、整然とビルが立ち並ぶメタバースの世界と、対をなす高知の自然の風景は、この映画の見どころの一つでもあり、映画を観たファンが舞台となった高知の地を訪れてくれています。

この展覧会では、映画制作の過程や、名場面、この作品に込めた細田監督の思いを紹介し、改めてその魅力を振り返るとともに、映画公開から2年たち、その舞台の地にはどんなレガシーが残ったのかこの映画が高知に残した軌跡をたどります。



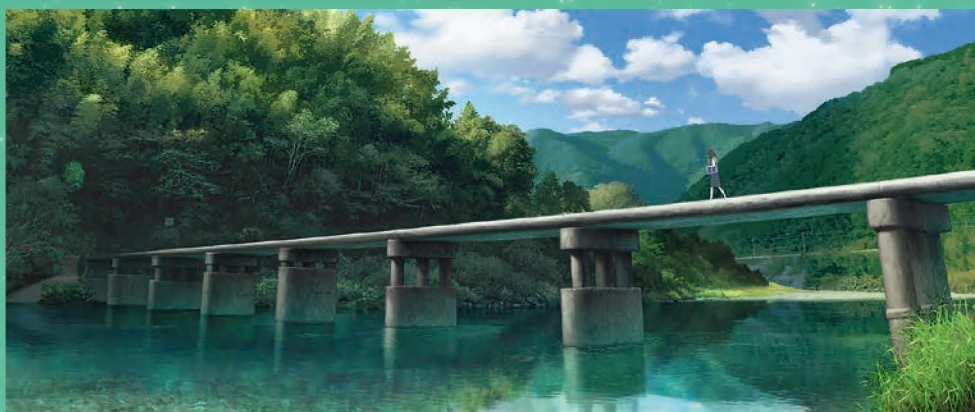
開催期間 ● 2023年4月1日(土)～5月14日(日)
開催場所 ● 横山隆一記念まんが館 企画展示室／高知市文化プラザかるぽーと7階・第3展示室
時 間 ● 10:00～17:30(企画展最終受付16:30)
(まんが館ライブラリー、常設展示は9:00～18:00)
休館日 ● 毎週月曜日
観覧料 ● 一般 1,000円／中・高校生 700円／小学生 400円 ※未就学児無料
※65歳以上の方、及び身体障害者手帳(1、2級)、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者とその介護者(1名)は、割引料金(半額)適用
※20名以上で利用の際の団体割引、学校利用割引設定あり
※一般割引500円、団体800円／中・高校生割引350円、団体560円／小学生割引200円、団体320円
※企画展の観覧券で常設展示もご覧いただけます
※観覧券は一日限り有効
主 催 ● 高知市／横山隆一記念まんが館／(公財)高知市文化振興事業団
協 力 ● スタジオ地図

フクちゃん 横山隆一 (1969年)



細田 守監督 プロフィール

1967年生まれ、富山県出身。1991年に東映動画(現・東映アニメーション)へ入社し、アニメーターを経て1999年に「劇場版デジモンアドベンチャー」で映画監督としてデビュー。その後、フリーとなり、「時をかける少女」(06)、「サマーウォーズ」(09)を監督し、国内外で注目を集める。2011年、自身のアニメーション映画制作会社「スタジオ地図」を設立し、「おおかみこどもの雨と雪」(12)、「バケモノの子」(15)、「未来のミライ」(18)では監督・脚本・原作を手がけ、「未来のミライ」は第91回米アカデミー賞長編アニメーション作品賞にノミネートされる等高い評価を得た。



第18回
まんがの日
記念

4コマまんが大賞作品展

の報告と次回募集開始について

「第18回4コマまんが大賞」に応募いただいた作品のうち、入賞作品を含む一次通過作品と前回の入賞作品・ギャラリー賞を加えて、計167点を展示しました。

今回は、審査員を務めていただいている、矢野徳さんにお越しいただき、展示会場で表彰式を行いました。

来場者の皆様にお気に入りの作品を選んで投票してもらい、得票数が多かった作品に贈られる「ギャラリー賞」を今年も実施。一般・ジュニア部門合わせて6作品が選ばれました。横山隆一記念まんが館のホームページでは、作品の画像とともに投票の理由（抜粋）も公開しています。

また、19回目の「4コマまんが大賞」の作品募集が、4月から始まります。詳しい応募要項等は3月下旬ごろから公開の予定です。

皆様の作品を楽しみに待っています。

奮ってご応募ください。

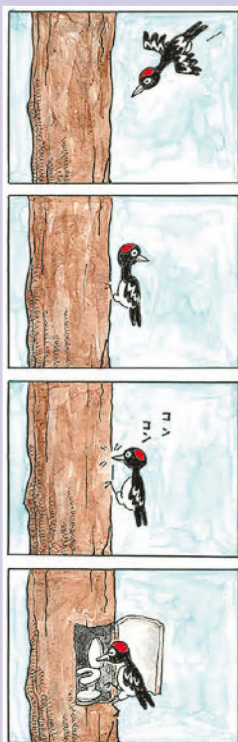


講評をする矢野徳さん



「強盗」

P.N. ベリー・マーンソン



「きつぎの用足」

小林 尚武



「視力検査」

小林 尚武

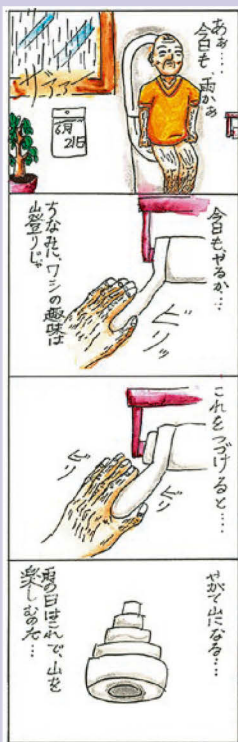
ギャラリー賞 一般部門

期 間 ● 2022年12月17日(土)～2023年1月9日(月・祝)
※12月26日(月)～1月4日(水)は休館
場 所 ● 高知市立自由民権記念館 自由ギャラリー



「自由」

P.N. おねいつ



「わしの楽しみ」

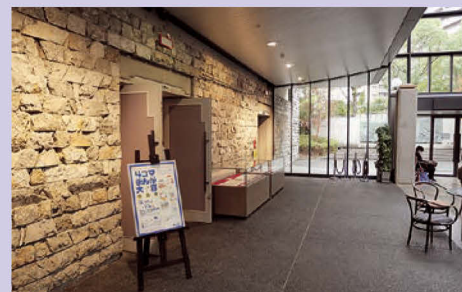
倉石 檜



「かぶと虫のぼたん」

安藤 樹希

ギャラリー賞 ジュニア部門



見応えのある展示になりました

開館20周年を迎えた横山隆一記念まんが館の開館前後を、実際に携わった方々にお話を聞いて振り返ります。

最終回は、高知市職員として開館を担当された、筒井秀一（現在・高知市立自由民権記念館館長）さんにお話を伺いました。



横山隆一との縁を聞かせてください。

まんが館設立の話が具体化しそうな頃、高知市の博物館施設で学芸員的立場にある職員の誰かも一緒に行って話をきいてきて、というので、当時（も）自由民権記念館にいた自分に白羽の矢が立ち、鎌倉のお宅を訪ねたのが一番最初。

印象はどうでしたか。

まあ、感動したね。あれだけの人物と直接話ができるなんて「生きてよかった」と思うほどのレベルだった。とにかく座談の名手で、何もかも話が面白かったよな。

1999年に、まんが館の入る「かるぼーと（当時は「仮称・高知市民総合文化プラザ」）の開館担当になりました。

すでに展示の実施設設計が1年ほど前に出来ていたけど、その図面を見て、あれ、展示の準備をするスペースが無い、展示ケースや額などの展示の道具を保管する場所が無い、展示室の照明も不十分、など色々気がついた。

これは博物館としてまずいぞとなつて、スペースの確保を含め、もう一度館内の展示設計を見直してもらったことになった。館の設置者である高知市の代表として、もっと横山隆一の世界観が出るようにと展示物の内容にも口を出したし、それによって展示の配置も変わって、

最初の計画から削らないといけないものもあった。今思えば、途中から参加してよくもそんなに遠慮なく意見したな、と。

一番印象に残っているのは。

鎌倉のお宅にあった居酒屋「笑龍洞」の板戸を「これも展示したい」とお願いして、もろってきたこと。（隆一）先生は「いいよ」と言ってくれたさつたけど、今使っているものを高知に移して、ってというのは、ご家族には複雑な思いもあったかも。

まんが館の常設展示の内容がほぼ決まった後は、「かるぼーと全体」の開館準備の担当係長として奔走されました。

備品の購入や、記念の文化事業の選定、開館記念式典の準備、ホールやギャラリーの貸出のルール決めなどなど、やることはいっぱいあったね。

まんが館のオープニングにはフランスのアングレームから市長が、そして当時の東京都知事、故石原慎太郎氏が来高されました。

冗談半分で、よく鎌倉の家に遊びに来ていたんだからそのよしみで石原慎太郎を呼んだらいいんじゃない?とか言っていて、自分は全く面識もないけど、とりあえず都庁の秘書課に電話した。都知事と先生との関係を説明して、横山隆一を顕彰する記念館が開館するのだが、オープニングの行事に出席してもらえないか。って忙しい人だからどうせ来られないかと思っていたのに、「行く」という返事が来て。それから、航空券だのホテルだのの心配が大変だった。なんせ石原さんだから、色々注文も多くて（笑）。結局日程は二転三転して、日帰りのタイトなスケジュールになったのだけど、まあとにかく気を使ったね。

オープニングの「横山隆一追悼展」から後、高知のまんが家を取り上げた企画展が続きました。

「高知の」というところに重きを置いて、学術的というか、真面目に「まんが」に向き合った結果。館の設置目的とも合致してるし。でも、もうちょっとエントナメ性の高いものもやって、集客や収益というところももっとカバー出来たら良かった、とも今は思う。当時は忙しすぎてそこまで気が回らなかった。

当時はどんな状況でしたか。

疾風怒濤の日々だった。開館までの最後の1か月くらいは、かるぼーとに結構泊まり込んでいた。あまりの忙しさに職員が音を上げることもあって、「つべこべ言わずに死ぬ気でやれ!」と思った事も。さすがに口には出さなかったけど。

今だから言える話は。

開館初日、餅ばい*直前ではたばたの最中、マスコミに「建設計画はいつ頃から?」と声をかけられ「今それを聞く!」と言って走り去ったこと。今思えば申し訳ないような...。*土佐弁で餅まきのこと

まんが館の未来はどうなっていくでしょう。

正直、「フクちゃん」にリバイバルブームが来る、なんてことはかなり可能性が低い。だから、困難な道が待っていると思うけど...。でも、「まんが」そのものは可能性のある文化だから、こういう道を開拓して進んでいくか、それがスタッフの腕の見せ所でしょう。

予算も厳しいと思うけど、博物館の学芸員は出張して資料見て、っていうのも結構重要な仕事の一つだし、勉強して考えてほしい。がんばってね。



休館中も、連載中の話題作や高知出身まんが家の作品など、たくさん本を続けて購入しています。4月1日の開館以降、お立ち寄りの際には、ぜひお手に取ってお楽しみください。

ところで、まんが館には既に16,000冊の本が収蔵・開架されており、もう空きがない状況です。そういった隣の喫茶店が入っていたスペースは、かるぼーとの改修工事が終わったあとにまだ空いたままなのだから。ここはもう本棚を入れて、飲み物も飲めるまんがライブラリー3ということで運用するのはどうでしょう。17時からお酒も出したら...。そんな夢想はさておき、今日も背表紙に管理シールを貼るのです。

【新刊（新シリーズ）】

チ。ー地球の運動について 1〜8 魚豊
タコビーの原罪 上下 タイザン5
丁寧な暮らしをする餓鬼 1〜2 塵芥拒士

【高知出身作家】

アテはテンブラ カモカナ!! 加茂加奈
DYS CASCAD 1〜2 中川海二
怪獣自衛隊 10 井上淳哉

【続巻ピックアップ】

キングダム 67 原 泰久
呪術廻戦 21 芥見下々
SPY x FAMILY 10 遠藤達哉
ONE PIECE 104 尾田栄一郎
名探偵コナン 102 青山剛昌
ひとりじめしたい 5 カレー沢薫
ミステリと言う勿れ 12 田村由美
ゴールデンカムイ 31 野田サトル
ちはやふる 50 末次由記
あした死ぬには、 4 雁須磨子
他多数

第70回全国博物館大会へ参加しました

公益財団法人日本博物館協会主催の第70回全国博物館大会が2022年11月16日（水）～18日（金）の日程で、高知県立県民文化ホール等を会場として開催されました。

初日は、高知に縁のある地球科学者の尾池和夫さんに日本における地震と日本人の文化の関係について基調講演があり、またフォーラムでは、「地域の視点から考える博物館政策」というテーマで、こうちミュージアムネットワークの活動等について紹介がありました。また、「よさこい踊り」や、「連池太刀踊り」が披露され高知をPRしていました。2日目は、「連携・新たな博物館連携の可能性」、「保存と活用」文化行政の課題克服と文化資源の活用、「運営・挑戦する地域の文化施設」の3つのテーマで分科会に分かれ討論が行われました。3日目は、「東部」、「中部」、「佐川・越知」のコースに分かれ、高知の現状・歴史・文化・自然を体感していただくエクスカージョンが行われました。

まんが館職員はサポートスタッフとして、前日準備、初日、2日目にメイン会場ステージを担当しました。舞台袖から大会に参加し、熱を帯びた討論を肌で感じる事が出来ました。

お城下文化の日に参加しました

2022年11月20日（日）に開催されたお城下文化の日にまんが館もブースを出して参加しました。このイベントは、高知市中心部の文化施設でつくる「お城下ネット」が毎年11月に「文化」をキーワードに開催しているもので、今年はコロナ禍で実施を見送っていた合同ワークショップ会場も復活し、まんが館は「ふうせんどり」刊行記念（紙風船であそぼう）と「フクちゃんも大好き」こども写し絵体験コーナーの2ブースで子どもたちとワークショップを楽しみました。

また、休館中のまんが館に代わり、高知城歴史博物館の北ステージに「横山隆一記念まんが館分室」をオープンし、来館者プレゼントとして絵はがきを配布したほか、高知漫画集団の山北三砂子先生と種田英幸先生による似顔絵コーナー、まんが館関連書籍やまんが本が読めるプチライブラリーコーナーを設けました。

お子様からお年寄りの方まで似顔絵を楽しんでいただき、また用意したワークショップの材料が無くなる程の大盛況で、たくさんの方に文化をお届けできた一日でした。



会場には巨大ふうせんどりも！

「まんがで遊ぼう！クリスマス」を自由民権記念館で開催しました

4コマまんが大賞作品展のギャラリー賞の投票と一緒に工作も楽しんでもらおうと企画した「まんがで遊ぼう！クリスマス」を2022年12月24日（土）のクリスマスに開催しました。作品展を自由民権記念館の自由ギャラリーで開催したため、その会場入り口にブースを構え、子どもたちを迎えることになりました。高知市の観測史上最大の積雪を記録した翌日であったものの11名の参加があり、缶バッジ制作を楽しんでいただきました。

集中して絵を描く時間を楽しめたと親子で参加された方からお声をいただき、改めて体験イベント開催の意義を感じました。



描き足りない子どもたちです

横山隆一記念まんが館再開します

令和5年4月1日（土）より、横山隆一記念まんが館を再開します。かるぽーとのリニューアルオープン記念イベントとして「竜とそばかすの姫」展（高知への遺産）のほか、順次企画展を開催予定です。常設展示や新刊が入荷したまんがライブラリーもぜひお楽しみください。皆さまのご来館をお待ちしております。

館のご案内

お問い合わせ先
横山隆一記念まんが館は、建物改修工事に伴い休館しています。（令和4年4月1日～令和5年3月31日予定）

〒781-9529 高知市九反田2-1
高知市文化プラザかるぽーと内
横山隆一記念まんが館
TEL: 088-883-5029
FAX: 088-883-5049
URL: <http://www.kfca.jp/mangkan/>
E-mail: mangkan@kfca.jp



@mangkan_kochi



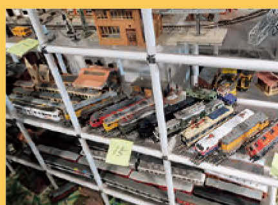
mangkan_kochi



横山隆一記念まんが館

休館四方山話

実は、常設展示の資料の中には、収蔵台帳に登録されずに20年経過したものがあります。休館中の大きな仕事の一つに、そのような資料の登録がありました。鉄道模型の展示「隆一GARAGARA」では、まず全体を区分けして番号をつけ、区画毎に記録写真を撮りながら、膨大な数の鉄道模型やジオラマなどの資料を外しました。その後、一つずつ丁寧に掃除をして撮影し、サイズを測るなどの調査をしました。そして現在、それらの作業はほぼ終わり、再オープンに向け、展示をし直すだけになりました。さてさて、元通りに戻せるかしら。結果は、4月以降まんが館でお確かめください。



何か面白いことがないかなあ（仕事の話です）と考えているのですが、思いついても出来ない（物理的・予算的）ことが多いです。ドラえもんのように、不思議なポケットが今の私には必要なかも思いません。そんなことを言ってもしょうがないので、出来ることからコツコツとやってみるかありません。まんが館はどの方向に進めばよいのでしょうか？助けて～ドラえもんと呼ばなければいけないかもしれません。昔のフクちゃんのおじいさんなら何とかしてくれたかもしれません。（大）